市民と共同の2020年以降の講演会、語る会の取り組み

小東由男

1　前川喜平講演会

開催日：2020年2月11日、万代市民会館6F多目的ホール

発端：2019年11月初め、複数の知り合いの現職教員と話す機会があった。その中で、「身の丈発言で象徴されるように、教育の機会均等を否定し、教育の格差を容認するような風潮が広まっているのではないか」「働き方改革の名のもとで、教員の過労死を増長させるような教員の労働裁量性の導入が図られそうだ」「学力向上を図ろうと、各地で過度の競争と学力テスト対策が行われている。小学校での英語学習、さらにアクティブラーニングやプログラミング学習を取り入れた授業で教師や子どもへの負担増が懸念される」等、教育の現状を憂える問題が出された。さらに教員だけでなく、多くの市民にこのような教育問題に関心を持ってもらい、これからの教育を考えるような講演会を2月か3月に開催するような取り組みの中心に研究所が担って欲しい、という要望も出された。19年11月14日の所員会議で経過を話し、他の所員の賛同を得た。以降、研究所が中心となって講演会の開催に向けて活動を進めることになる。

広める活動：共闘してきた諸団体に対して、講演会案内チラシ配布をお願いした。前川氏の知名度もあり多くの方々から関心が寄せられた。

講演会実行委員会：１回２０１９年12月18日、２回12月23日、３回２０２０年２月５日
当日：会場満杯になり、場外のロビーで聴いていた方も。
参加者：約３００名（注１）
その後の「コロナ禍」騒動直前の講演会開催となった。その後騒ぎは、世界中を巻き込んだパンデミックに発展。大勢の人が集まる催しものは一斉に自粛されることとなった。
２０２３年１月24日（第８波の流行　最高時は８万１５８５人。その後、減少。５月８日には９３１０人）、「新型コロナは、５月８日以降、５類となる」ことを発表すると政府が明言した。騒ぎの終息が近づきつつあるとの安ど感が広がった。

２　新潟の教育を語るつどい
「学校はブラック!?
若手教師と考える教職の困難と希望」

開催日：２０２３年８月26日、新潟市総合福祉会館４０７
発端：新潟市内で勤務する若い教員から勤務実態や仕事のやりがいを聴きたいと話し合った。
当日：３名のパネラーの話を聴き、苦労していることや仕事のやりがいについて語ってもらった。
参加者：約30名（注２）

３　教育シンポジウム
「どうなってるの？　今どきの学校」

開催日：２０２５年３月15日、新潟市総合福祉会館和室
発端：新潟県内で勤務している教職員から勤務実態や「仕事のやりがい」について聴く機会を得たいと話し合った。
「小中学校、高校、大学の教員から、今問題となっていること、子ども・若者たちの様子、改革のために必要なこと、などを語る」をテーマとした集いを開催することにした。
当日：５名のパネラーから、勤務実態、仕事のやりがいについて語ってもらった。質疑応答の後、参加者全員で学校や教育に対して日頃から考えていることを語り合った。
参加者：約40名程度（注３）

4　鈴木大裕講演会
「子どもと先生が行きたくなる学校へ」

開催日：２０２５年11月８日、新潟大学教育学部１０７講義室

発端：（講演会当日の実行委員会　小林朗事務局長の「経過報告」を掲載します）

たくさんのみなさんがお集まりいただき、ありがとうございます。

私たちは保護者、フリースクールに携わっている支援者、大学生、教職員などで実行委員会をつくりました。同じ立場の人の集まりではなく、さまざまな立場の人たちが集まる会は新潟市でも初めてではないでしょうか。学校、子どものことを考えてゆこうという会です。

新潟市、県では不登校、いじめ、暴力事件の発生が全国の中でもトップクラスです。なぜ多いのか会で話し合いました。学習内容が増加し、子どもたちの大好きな学校行事などが減っています。学校が子どもたちの居場所になっていないのではないか懸念されました。子ども中心の教育をすすめたいと会では多くの発言が出ました。

そんな中で、日本の教育はコロナ禍で公教育の民営化が加速したと指摘する鈴木大裕さんを知りました。鈴木さんはアメリカに留学し、公教育が民営化で崩壊する惨状をみてきました。アメリカに追随する日本の教育改革の誤りも鈴木さんは指摘し、あるべき改革の道を提示しています。

『勝ち組』『負け組』の競争的な格差社会において、学校はどのような困難を抱えているでしょうか。今日の学校を取り巻く息苦しさを考える時、教室や学校という枠組みの中で答えを探してもらちがあきません。こんなにも多くの子どもたちが学校に行きたがらないのはなぜなのでしょうか？これだけ多くの教員たちが精神を患っているのはなぜなのでしょうか？そこにどんなつながりがあり、私たちは何に希望を見出すことができるのでしょうか。

鈴木さんの話を聞きたい、講演会を開きたいと企画しました。鈴木さんの話を直接聞きたいとお招きすることになりました。（以下、略）

広める活動：教育委員会やメディアから後援をもらい、チラシを作成して共闘団体に配布を依頼した。新潟市

からの地域活動補助交付金を受けることにもなった。

受付：Google のフォームからの申し込み、諸団体からの参加集約。

講演会実行委員会：１回２０２５年７月19日、２回８月５日、３回８月27日、４回９月17日、５回10月１日、６回10月16日、７回10月30日、８回 11月27日

当日：実行委員は午前11時に集合して打ち合わせの後、準備。講演開始まで、係の仕事に従事した。

参加者が次々に会場に入り、講演開始前にはほぼ満員状態に。実行委員メンバーの一部やメディア関係者はモニター会場（１０８講義室）で視聴。

途中で数度の質疑応答の時間を設けた。盛況のうちに講演会は終了した。

参加者：約１５０名（注４）

事務局長の話にあった通り、実行委員会には多方面からの参加があった。会議の冒頭に時間をとって、参加者一人ひとりから、日頃思っていることや実践している内容についてスピーチをしてもらった。メンバーの人となりが知れて、協同のモチベーションが高まった。

仕事や学業で忙しい中、夕方７時からの会議開催となった。急用が入ったり、交通渋滞に巻き込まれたりと、参加すること自体の困難にも直面した。

準備や当日の運営については、メンバーの特技を生かした。そのことが幸いして、スムーズに諸準備を進めることが出来た。

また、天候も味方してくれた。参加者の皆さんと共に、講師の鈴木大裕氏の熱い語りとプレゼンに感動したひと時を共有することができた。

反省と総括のための実行委員会に出された意見を大切にしながら、今後とも共同の取り組みを継続的に進めたいとの思いが募っている。

［注］

（注１）「研究所通信」第１５５号（２０１９・12）第１５６号（２０２０・３）で概報。

（注２）『にいがたの教育情報』第１３９号（２０２３・12）で概報。

（注３）『にいがたの教育情報』第１４２号（２０２５・６）で概報。

（注４）『にいがたの教育情報』第１４３号 本号（２０２５・12）で講演内容をまとめた記事を掲載。

（こひがし　よしお　所員）